

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		伊丹市立児童発達支援センター					公表日	R8年 2月 16日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点			
		環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	○		必要に応じて持参している。 できるだけその場で対応できるよう、必要に応じて準備をし、訪問している。	訪問先の環境など、事前の把握が必要になる。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		必ず複数人（2名）で訪問するようにしている。 内容によって、職員を選んでいる。 基準では1人で行けるところを2名で行っている。そのおかげで、効率よく進み、写真などの記録も可能になっている。 2名体制で行い、支援の内容によりセラピストの調整を行っている。	本児の課題により職員の職種を考慮して訪問するようにしている。 センターの保育時間と被ってしまうことがある時は他の職員が保育に入り、保育を進めている状態である。			
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		2人体制で訪問し、こどもの様子を観察、訪問先の先生と情報共有をしている。	今後、定期的にPDCAサイクルについての研修を実施する。			
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			保護者に限らず施設へのアンケート結果をHPで公表している。HPで公表しているのを確認するように周知していく。			
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		こどもの状況について担当者間で情報共有している。 ツールを用いたアセスメントでの確認は難しい。 会議で話し合う機会を設けている。	定期的な会議や用紙への記入等で、一人一人の意見を聞く機会を設け、職員の意見を業務改善に活かしている。			
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		次年度の訪問に生かしている。	訪問先へのアンケートにより保育所等訪問の評価をしている。			
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		自主研修を含め、研修情報をその都度掲示している。また研修報告で研修内容を共有している。 研修を受講する機会は確保されている。	研修の周知を職員にはしているが、自主研修のため参加するしないは職員の希望になる。			
	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○		保護者のニーズを聞き、計画を作成している。	保護者のニーズを聞き取り、多職種で課題を分析し、計画書の作成を行っている。			
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		前担任と子どもの様子を共有しながら検討している。	支援に関わる複数の職員で検討している。			
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○		お互いの様子などを話し連携を取っている。 訪問先の先生にも気になっていることを聞くようにしている。 訪問先施設の担当者としつかりと話し合い、その場所の環境にあった支援内容になるようにしている	保護者の意向で訪問しているが、あすばる主導ではなく、訪問先ができる範囲で一緒に考えていくようにしている。			
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		前担任を含めて共有しながら支援を行っている。 保育所等訪問支援の後、職員間で支援の内容や支援先での様子を共有している。	計画書の内容を職員で確認して、訪問している。			

適切な支援の提供	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		訪問時の行動観察や訪問先の先生方との話により子どもの状況や支援方法を確認している。	実際の保育や授業中に伺い、その時の姿勢や子どもの行動を観察し、具体的な支援を行ったり、行動の意味を確認し合い、支援方法を共有している。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○			日常生活をスムーズに営めるよう、子どもにあった支援内容を設定することに努めている。また、職員間の共通理解のためガイドラインの確認を実施。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		前担任を含めて共有している。担当のみで共有している。	計画書の内容を職員で確認して、訪問している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		保護者のニーズを確認して、ニーズに沿った支援方法を共有している。行われている。チームではないが、担当と打ち合わせはしている。担当者間で行っている。	訪問前に、子どもを観察するポイントや訪問先の職員と共有すべき内容等、確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		報告書を記載する中で、共有している	訪問後は振り返りを行い、報告書に記載している。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○		極力訪問先に合わすようにしている。	現状行われている支援の継続や今の環境でできる支援方法を提案している。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○		報告書は記録している。	訪問先と保護者の同意を得て、必要に応じて写真での記録、また報告書への記載を行っている。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者から依頼があった場合に、訪問しているので、その際は前回の計画の見直しをしている。	保護者から依頼があった際には前回の計画書を見直し、要望に適した計画案になるよう努めている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		行っている。	会議は保育中と重なっているため、通所部門のリーダーや相談支援担当の職員が、子どもの状況を把握し、参加している。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		行っている。	公の施設として連携は積極的に行い、支援体制を整えている。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		引継ぎなどを含めて、支援が継続できるように共有している。情報共有している。	移行先の先生が訪問し、子どもの様子を観察したり、聞き取りにて支援内容等、情報共有を行っている。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		研修に行ったり、研修報告を共有することで質の向上を図っている。	研修案内を提示し、積極的に参加している。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		センターとして参加している	会議は保育中と重なっているため、通所部門のリーダーや相談支援担当の職員が、子どもの状況を把握し、参加し情報共有を行っている。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		来所された際こどもの様子について共有している。共通理解を持てるよう、見学にきていただくこともある	来所時に、懇談や相談の中で子どもさんの現状を聞き、共通理解を図っている。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		あすばるに在籍がある保護者には研修会の案内をしている。保護者教室などで、研修や情報共有の機会を設けている。	通所部門に在籍している保護者は定期的に研修会を開催している。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		詳細の案内文を作成し、手渡し説明をしている。	契約の時に保育所等訪問について説明する際に運営規定や利用負担額の話をしている。担当者だけが知っているのではなく、職員が知っておく必要がある。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○		行っている。	書式、事前連絡時に説明を行っている。

保護者等への説明等	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者の思いや子どもの様子を聞き取る中で、意向を取り入れて作成している。保護者に確認するようにしている。訪問前に、保護者に確認している。	作成時に利用目的や主訴を聞き取り、説明時に意向の確認を行っている。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○			訪問前に、内容を確認して了承を得ている。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な面談はしていないが電話がかかったり来所された際にお話を伺っている。リハビリを行っている時に相談にのっている。必要に応じて相談担当などへ繋いでいる。	施設利用時や手続きの更新などで担当職員が対応している。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		通所部門で行っている。保護者教室、保護者会を通して、保護者同士の交流する機会を設けている。また行事できょうだいに参加する機会を設けている。センターとして支援を行っている。保護者教室を実施にしており、他フロアの保護者とも交流が取れるようにしている。	通所部門で実施している。通所と利用している方が、保育所等訪問支援も併用している。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		進路を含めて、様々な相談の対応を行って対応している	相談内容を聞き、適切に対応している。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		あすばるに在籍がある保護者には定期的におたよりを配信している。	保育所等訪問支援の連携については、保護者同意のサインをするため紙面上での連絡・情報発信をしている。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			保護者の同意をもらい、十分留意している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		配慮している。	円滑なコミュニケーションが取れるように配慮している。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○			相談内容に応じ、職員が適切に対応している。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○		担任や支援に携わる職員と本児の様子を共有訪問時、最後に少し説明するようにしている。観察後に話し合いの時間が設けられている。観察後に話し合いの時間が設けられている。観察後に話し合いの時間が設けられています。訪問支援実施中に施設の方とお話する時間を作って頂いています。訪問支援後に可能な限り、振り返りの時間を設けて頂いている。	訪問支援時に行っている。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○		保護者へ報告の際に共有している。報告者を元に個別に説明をしている。写真と報告書を用いて説明を行っている。	訪問後は説明を行い、情報共有している。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		留意している。	訪問先での写真撮影の同意や情報開示に留意している。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○		こちらの提案を押し付けるような形にならないように配慮している。	訪問先の現状を把握し、支援内容を確認した上で取り組みやすい支援方法を伝えている。信頼関係の築きに努めている。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年度初めに周知し、保護者向けへマニュアルをいつでも確認出来る場所へ掲示している。	契約時に説明し、来所時に実施される訓練には参加してもらう。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		計画書を周知している。センター全体で実施している	安全計画に基づき、研修や訓練の実施や災害等マニュアルの掲示し、安全管理に留意している。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		センター内リスクや外部リスクを通して検討する機会を設けている。センター全体で研修会を実施している	センター内のヒヤリハットに準じる。

応	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待研修や虐待防止委員会を通して、周知する機会を設けている。 担当が定期的に行っている	担当が主催して職員の全体研修として毎年行っている。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	支援計画ではなく、別紙に記載している。 担当が定期的に行っている	契約時に説明し、同意をいただき支援計画に反映している。